

映画に見る『核兵器』： 私が選んだベスト10

2019年度第5回核兵器廃絶市民講座

2019年12月14日

鈴木達治郎

核兵器廃絶研究センター 副センター長・教授

2

お断り（その1）

著作権協会の規則に従い、本会場
では、映画の一部、予告編、ポス
ター等を、お見せできません。
大変申し訳ございません。

いんちき。



お断り（その2）



「私が選んだベスト10」は、あくまでも私の**独断と偏見**にもとづいて、ご紹介するものであり、客観的で公正な指標で選んだわけではありません。

（ただし本人は**至極真剣**に選んでおります。）

4

お断り（その3）

「この映画が抜けている！」

「こちらの方がおもしろい！」

とお思いになる方もいらっしゃると思います。

そのようなコメント・感想は**大歓迎**です。

対象とした映画と年代

年代	映画（計20本）
1950~60年代	ひろしま（1953）、ゴジラ（1954）、渚にて（1959） 博士の異常な愛情（1964）、未知への飛行（1964） 計5本
1970~80年代	太陽を盗んだ男（1979）、アトミックカフェ（1982）、 ウォーゲーム（1983）ザ・ディ・アフター（1983）、 シャドーマーカーズ（1989）黒い雨（1989） 計6本
1990年代	ターミネーター2（1991）クリムゾン・タイド（1995）、ブローク ン・アロー（1996）、ピースメーカー（1997）、アルマゲドン （1998） 計5本
2000年以降	トータルフィアーズ（2002）父と暮らせば（2004）、母と暮らせば （2015）、この世界の片隅に（2016） 計5本

映画のテーマ別分類

テーマ	映画（計20本）
核戦争	博士の異常な愛情（1964）、未知への飛行（1964）、ウォーゲーム（1983）、ザ・ディ・アフター（1983）、クリムゾン・タイド（1995） 計5本
核テロリズム	太陽を盗んだ男（1979）、ブロークンアロー（1996）、ピースメーカー（1997）、トータルフィアーズ（2002） 計4本
戦争前後の世界 （広島・長崎）	ひろしま（1953）、黒い雨（1989）、父と暮らせば（2004）、母と暮らせば（2015）、この世界の片隅に（2016） 計5本
その他 （核の歴史、核汚染の影響、世界の終末）	ゴジラ（1954）、渚にて（1959）、アトミックカフェ（1982）、シャドーメーカーズ（1989）、ターミネーター2（1991）、アルマゲドン（1998）、 計6本

映画の評価手法

- 「**社会性**」：社会へのメッセージへの強さ。社会に与えたインパクト。
- 「**科学性**」：科学的根拠の正確さ。ストーリーの合理性。
- 「**娯楽性**」：エンタテインメントとしての魅力。
- 「**芸術性**」：脚本、演技、映像など、「芸術」としての映画評。

各5点 x 4 = 20点満点

★ボーナスポイント（受賞していれば+1点）

- 「**受賞歴**」：米アカデミー賞など、有力な賞を受賞しているか。

8

ベスト10の発表

その前に…

20位から11位ま
での発表

9 20位から16位まで

16位	ターミネーター2 (1991)	11
17位	渚にて (1959)	10
18位	ブロークンアロー (1996)	9
19位	アルマゲドン (1998)	8
20位	トータルフィアーズ (2002)	7

10 15位から11位まで

11位	太陽を盗んだ男 (1979)	15
12位	シャドーマーカーズ (1989)	14
13位	アトミックカフェ (1982)	13
14位	ひろしま (1953)	12+
15位	ウォーゲーム (1983)	12

|| 第11位 「太陽を盗んだ男」 (1979)

(解説) (eiga.comより)

- 1979年製作 / 147分 / 日本
- 配給：東宝
- <https://eiga.com/movie/37677/>
- 予告編：

<https://www.youtube.com/watch?v=vb11rPRIARM>

社会性	科学性	娯楽性	芸術性	総合
4	4	4	3	15

第**11**位 「太陽を盗んだ男」

12

- 原子力研究施設からプルトニウムを盗み出し、原爆を作りあげ国家を脅迫する中学の物理の教師の姿を描く。
- 主人公を沢田研二、対立する刑事役が菅原文太が演じ、大掛かりなカーアクションや内容の過激さで注目。アクションとユーモアで描いた本作品は、「俺たちに明日はない」（米）のような雰囲気
- 2009年にはキネマ旬報オールタイムベスト映画遺産200（日本映画編）で第7位

上位6位までの発表

第6位	未知への飛行 (1964)	18
第6位	ザ・ディアフター (1983)	18
第8位	クリムゾン・タイド (1995)	17
第8位	黒い雨 (1989)	17
第10位	ピースメーカー (1997)	16

第10位
「ピースメーカー」 (1997)

15 第10位 「ピースメーカー」 (1997)

- 1997年製作、124分、アメリカ映画。
- 監督：ミミ・レダー
- 主演：ジョージ・クルーニー、ニコール・キドマン
- 原題：The Peacemaker
- 予告編：<https://www.youtube.com/watch?v=h53JgLv4bnw>
<https://www.youtube.com/watch?v=QG8O3Cr9kEs>

社会性	科学性	娯楽性	芸術性	総合
4	4	5	3	16

第10位 「ピースメーカー」 (1997)

- (あらすじ) ロシアから解体処理を行う核弾頭9基が国外に運び出された。8基は回収されたがしかし残る1基は犯人一味のボスニア人がニューヨークに持ち込んだ...爆発まで時間がない。追跡チームは果たして核爆発を防げるか...
- この映画は、もともと”One Point Safe” (Leslie Cockburn, Andrew Cockburn著) というノンフィクションに基づいており、ロシアにおける核物質・核兵器の管理の甘さとその脅威を警告する映画として注目された。
- 冒頭の核兵器盗難のシーン、小型核兵器がテロリストにより米国内に持ち込まれるプロセス、マンハッタンに持ち込まれた小型核兵器を追跡する米の特殊部隊等のリアルなアクションが見もの。

第8位 「黒い雨」 (1989)

第8位 「クリムゾン・タイド」 (1995)

18

第8位 「黒い雨」 (1989)

- 1989年製作、123分、日本映画 (文部省特選)
- 脚本・監督は「女衞 (ぜげん)」の今村昌平、
- 主演：田中好子
- 予告編:

<https://www.youtube.com/watch?v=AkemncYRHlk>

社会性	科学性	娯楽性	芸術性	受賞	合計
4	4	3	5	+1	17

第8位 「黒い雨」 (1989)

19

- (解説) (eiga.comより) 原爆による黒い雨を浴びたために人生を狂わせられてしまった女性と、それを暖かく見守る叔父夫婦とのふれあいを描く。井伏鱒二原作の同名小説の映画化。
- 主演田中好子が好演。第13回日本アカデミー賞作品賞、監督賞、脚本賞、主演女優賞、助演女優賞(市原悦子)、音楽賞(武満徹)受賞。
- 広島原爆投下の瞬間から衝撃的な描写で始まるが、映画全体は、二次被爆の恐ろしさと被爆者の悲劇的な人生に心を打たれる。

20 第8位 「クリムゾン・タイド」 (1995)

- 1995年製作、123分、アメリカ
- 監督：トニー・スコット
- 原題：Crimson Tide
- 配給：ブエナ ビスタ インターナショナル ジャパン
- 予告編：https://www.youtube.com/watch?v=54BxdN_ZjdQ

社会性	科学性	娯楽性	芸術性	総合
4	4	5	5	17

21 第8位「クリムゾン・タイド」 (1995)

- (あらすじ) クーデターが勃発しロシア情勢は一気に悪化、**反乱軍が核施設を制圧した事で世界は第三次大戦の危機を迎えた**。米海軍はベテランの艦長と新任の副長を乗せた原潜アラバマを派遣するが、**核攻撃準備の指令をめぐる艦長と副長は対立してしまう**
- **原子力潜水艦における核ミサイル発射のプロセス**が詳細に、かつリアルに描写。
- キューバミサイル危機に実際に起こったソ連潜水艦副長のエピソードをモチーフにしているといわれる (Wikipediaより)
- アカデミー賞の音響効果賞、音響賞、編集賞にノミネート (1995年)

第6位 「ザ・ディアフター」 (1983)

第6位 「未知への飛行」 (1963)

23 第6位 「ザ・ディアフター」 (1983)

- 1983年、127分、アメリカ
- 監督：ニコラス・メイヤー
- 主演：ジェーソン・ロバーツ
- 核攻撃のシーン：

<https://www.youtube.com/watch?v=7VG2ajylFrA>

社会性	科学性	娯楽性	芸術性	受賞	総合
5	4	4	4	1	18

第6位 「ザ・デイアフター」 (1983)

- (あらすじ) 米ソが東西ドイツ国境で軍事対立、それがエスカレートして、ついにソ連がNATOに核攻撃、**そして米ソの全面核戦争へ**。核基地のあるカンザスシティーは核攻撃をうけて一瞬にして壊滅する・・・
- **核ミサイルの発射からカンザスシティーの壊滅**までが見どころ。その後(ザデイアフター)の悲惨な状況を描いた描写は、決して十分ではないが、米国民には衝撃を与えた。全米での視聴率は**46%**、推定で**1億23万人**が視聴した(Wikipedia)。
- テレビのアカデミー賞といわれる**エミー賞**で**音響編集賞受賞**、作品賞他**10部門**でノミネートされた。

25

第6位 「未知への飛行」 (1964)

- 1964年、112分、アメリカ
- 原題：Fail Safe
- 監督：シドニー・ルメット
- 主演：ヘンリー・フォンダ、ダン・オハーリー
- 配給：コロンビア映画
- 予告編：https://www.youtube.com/watch?v=miQ37ZBnZ_Y

社会性	科学性	娯楽性	芸術性	総合
5	5	4	4	18

第6位 「未知への飛行」 (1964)

- (あらすじ) アメリカの軍事コンピュータが、**誤ってソ連に対する核攻撃指令**を発してしまう。命令を受けた爆撃機は直ちにモスクワへ向けて発進、**帰還可能ポイント = フェイル・セーフを超えてしまう**。ソ連側の迎撃部隊も、爆撃機を撃墜することができず、ついに全ての手段は失われる……。 (Yahoo!映画より)
- **米大統領を演じるヘンリー・フォンダ、核戦争を論じる政治学者を演じるウォルター・マッソー、通訳役のラリー・ハグマンが好演。**
- 「核兵器が制御できない」メッセージは、「博士の異常な愛情 (1964)」と同じ。こちらの方がより専門的で評価が高く、2000年に**ジョージ・クルーニー主演**でテレビ映画としてリメイクされた。

27

第5位 「この世界の片隅に」 (2016)

28 第5位 「この世界の片隅に」 (2016)

- 2016年、129分、日本
- 監督：片淵須直
- 主演：のん、細谷佳正、稲葉菜月
- 原作：こうの史代
- 予告編：<https://www.youtube.com/watch?v=8L3-GfZ680M>
- 公式ウェブサイト：<https://konosekai.jp/>

社会性	科学性	娯楽性	芸術性	受賞	総合
5	4	4	5	1	19

29 第5位 「この世界の片隅に」 (2016)

- (あらすじ) 1944年(昭和19年)2月、18歳のすずは広島から軍港のある呉の北條家に嫁ぐ。戦時下、物資が徐々に不足する不自由さの中、すずは持ち前の性格で明るく日常を乗り切っていたが、翌年の空襲によって大切なものを失う。**広島への原子爆弾投下、終戦**。それでもすずは自分の居場所を呉と決め、生きていく。
- **何気ない日常の幸せを描くことで、その幸せを奪う戦争の悲惨さ**を訴えた感動大作。
- 2016年11月12日公開以来、2019年8月8日まで連続上映1000日を超え、12月20日には「この世界の(さらにいくつもの)片隅に」が公開予定。累計動員数**210万人**、興行収入**27億円**を突破(Wikipedia)。第**40回**日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞。第**90回**キネマ旬報ベスト・テン日本映画監督賞。

第3位 「父と暮らせば」 (2004) 、
第3位 「母と暮らせば」 (2015)

31

第3位 「父と暮らせば」 (2004)

第3位 「母と暮らせば」 (2015)

- 「父と暮らせば」
- 2004年、99分、日本
- 監督：黒木和雄
- 原作：井上ひさし
- 主演：宮沢りえ、原田芳雄、
- 予告編：

<https://www.youtube.com/watch?v=oMmUAqXRwjU>

- 「母と暮らせば」
- 2015年、130分、日本
- 監督：山田洋次
- 主演：吉永小百合、
二宮和也
- 予告編：

<https://www.youtube.com/watch?v=hvrsI03jRw>

社会性	科学性	娯楽性	芸術性	受賞	総合
5	4	5	5	1	20

第3位 「父と暮らせば」 (2004)

第3位 「母と暮らせば」 (2015)

- 「父と暮らせば」 (あらすじ) : 原爆投下から3年後の広島を舞台に、生き残ったことへの負い目に苦しみながら生きている娘と、そんな彼女の前に幽霊となって現れた父との心の交流を描いた人間ドラマ。
- 「母と暮らせば」 (あらすじ) : 井上ひさしの戯曲「父と暮せば」と対になる作品として実現を願いながらもかなわなかった物語を、名匠・山田洋次監督が映画化。1948年8月9日、長崎で助産婦をして暮らす伸子の前に、3年前に原爆で死んだはずの息子・浩二が現れる。2人は浩二の恋人・町子の幸せを気にかけてながら、たくさんの話をする。その幸せな時間は永遠に続くと思われたが.....。



第2位 「ゴジラ」 (1954)

第2位 「ゴジラ」 (1954)

- 1954年、97分、日本
- 監督：本多猪四郎
- 原作：香山滋
- 主演：宝田明、河内桃子、志村克
- 予告編：<https://www.youtube.com/watch?v=-aTxh0QmaEI>

社会性	科学性	娯楽性	芸術性	総合
5	5	5	5	20

第2位 「ゴジラ」 (1954)

- (あらすじ) 島の古い言い伝えから「ゴジラ」と命名された怪獣は、繰り返される**水爆実験の放射能の影響で目を覚まし**、東京に上陸したゴジラは街を火の海に変えていく。その頃、山根博士の愛弟子である**科学者の芹沢は、ゴジラにも有効な恐るべき発明を実現させていた**。その技術がいつか悪用されることを恐れ、使用をためらっていた芹沢だったが.....
- **怪獣、パニック、特撮、反核、政治と科学・・・あらゆる面で、オリジナリティに富む**日本が生んだ最高傑作のひとつ。特殊技術監督円谷英二は天才だ！
- ハリウッド版ゴジラは、アクション映画としてヒットするも、**反核や科学に対する警告のメッセージ**が弱い。このオリジナルには勝てない。

第2位 「ゴジラ」 (1954)

トリビア (Wikipediaより)

1. 円谷特撮監督は、怪獣として「巨大〇〇」を推薦したが、田中プロデューサーの「巨大恐竜」が採用された。 **正解 「タコ」**
2. 封切後、児童たちのアンケートでは「なぜゴジラを〇〇の？」との感想が多く寄せられた。 **正解 「殺した」**
3. ジャーナリズムの評価はおおむね低かったが、小津安二郎、手塚治虫、淀川長治、〇〇〇〇〇など著名人が高く評価。 **正解 「三島由紀夫」**

37

第1位 「博士の異常な愛情」 (1964)

38 第1位「博士の異常な愛情：または私は如何にして心配するのを止めて水爆を愛するようになったか」 (1964)

- 1963年、93分、アメリカ
- 監督：スタンリー・キューブリック
- 主演：ピーター・セラーズ、ジョージ・C・スコット
- 予告編：
<https://www.youtube.com/watch?v=v5aUHNajqQ0>
- 核戦争：
<https://www.youtube.com/watch?v=094cdbHSMVlk>

社会性	科学性	娯楽性	芸術性	受賞	総合
5	5	5	5	1	21

39 第1位「博士の異常な愛情：または私は如何にして心配するのを止めて水爆を愛するようになったか」 (1964)

- (あらすじ) 精神異常をきたした米国空軍のリッパー将軍の指示でソ連に向けて核攻撃が開始される。大統領はソ連と連絡を取って事態の収拾を図るが、迎撃機によって無線を破壊された爆撃機がついに目標に達成。一方、ロシアでは「自動地球破壊兵器 (doomsday machine)が開発されていたことがわかる...
- ピーター・セラーズが英国軍大佐、米国大統領、大統領科学顧問ストレンジラブ博士の3役を見事に演じる。

40 第1位「博士の異常な愛情：または私は如何にして心配するのを止めて水爆を愛するようになったか」 (1964)

- (トリビア) (Wikipediaより)
 1. 同時期にシドニー・ルメット監督の「未知への飛行」が製作されていた。キューブリック監督は内容が酷似していることから、訴訟を起こしたが、その後和解して、「未知への飛行」は〇〇〇で公開された。 **8か月遅れ**
 2. ストレンジラブ博士のモデルとしては、ナチス政権下でロケット開発に従事した〇〇〇〇博士といわれている。 **フォン・ブラウン博士**
 3. 爆撃機の機長のコング少佐役は、当初名優〇〇〇に依頼したが断られたという。 **ジョン・ウェイン**

映画に見る核兵器：最後に

- 冷戦時代のハリウッド映画では、米ソの核戦争とその危険性を描くものがおおかった。
- 一方、日本の映画は、原爆投下のもたらす被害、被爆者の人生など、原爆のもたらす悲劇を扱うものが圧倒的であった。その中で、ゴジラは核兵器が生んだ怪獣として、大人気者となったが、**オリジナルの「ゴジラ」のメッセージを忘れてはいけない。**
- 最近2000年以降の、ハリウッド映画では、核爆発を軽んじる映像や内容が増えつつある。一方で、核テロリズムに対する危機感も増加している。
- 核兵器を扱った映画は、これからも多く出るだろうが、**その時代の危機感、価値観、そして核政策への賛否を問うもの**として、注目していきたい。